

平成20年度 第21回北海道高等学校バスケットボール新人大会総評

2月9日(月)～11日(水) 旭川市

北海道バスケットボール協会  
指導者普及専門委員会委員 前野和義

昨年に引き続き旭川での大会でありましたが、皆様のご協力のお陰をもちまして無事終了しましたこと厚くお礼を申し上げます。今大会はバレーボール北北海道選抜大会開催の体育館使用の関係で平日開催となりました。また地元勢の奮闘により連日多くの観客が来場され、駐車場も大変混雑しましてご不便をお掛けしましたことを開催地としてお詫びを申し上げます。

さて、全国高校選抜優勝大会が3年生も含めた大会に変更されたことによって、この新人大会が新たな事業として開催されることになり、今大会で21回を数えることになりました。例年開催希望地区が少なく、極力札幌と旭川に集中されて開催になっております。どうぞこの新人大会も各地区が積極的に希望されることを願います。

新人大会も終了し、チームを客観的に評価して次のステップアップのために、チームの骨組みと色づけを再検討していく大切な期間になります。チーム力向上のためのファンダメンタルの見直しをしっかりとインターハイ予選を迎えたいものです。ある指導書に載っていた文章です。

#### 【セットオフENSEの基本的な考え方】

セットオフENSEの主な目的は適切な得点チャンスを生み出すことであり、その目的を達成するためにはいろいろな方法があるが、全てのコーチが理解しなければならないことは「どの様な方法を用いるかではなく、その方法をいかに実行するかである」ということである。すなわち、基礎をしっかりと積み重ね、プレーを正しく実行することを追求しなければならない。システム全体が上手くいくか否かは、プレーを実行する上でほんの細かいことによって決定づけられる。その微妙な違いが、良い選手と普通の選手の違いであり、そして勝つチームと負けるチームとの差である。コーチと選手にとって最初に必要なものは、個人のファンダメンタルをいかに習熟させるかである。次に必要なのはその基礎的能力をチーム力へと統合することである。その事が上手くなされればしっかりとした土台を持ったバスケットボールという建物が出来上がることになる。そうなればチームは自信を持ってプレーし、揺らぐことなく成功するであろう。

今大会の総評ということで、男子のベスト4を中心に述べさせていただきます。

優勝した恵庭南高校はチーム構成メンバーが参加チームの中で一番バランスの取れていたチームであったと思います。またウィンター予選から新チームでの構成で臨んでいたこともあり、ゲーム感がしっかり出ていました。⑧センター栃本の成長はチームの安定感を一層強くしており、⑤伊藤⑥古里⑦柳本のドライブが思い切って出来ることにつながったようです。またガード陣の1年生3名がそんな色無く戦力として起用できることは恵南にとっては大きな財産と云えます。特に準決勝の大麻戦でのディフェンスは非常に圧のかかったものでした。今後更なる機動力をつけてここ一番のチャンスに引き離しが出来るようなパワーのあるチームを期待しています。

決勝で惜敗した東海大四高校は12月までウィンターカップを戦っていた関係で、チームとしてまだまだ未調整であった感じがしました。外角のシュートが圧倒的に少なくなったことでインサイドの⑤西川の負担が多かったよう見えました。速攻も少なく1対1の切れも弱かったように思います。しかし1年生の⑩センター中村が成長することによって④須田と⑤西川のプレーエリアも広がり機動力も増すものと思います。新チームをどう強化していくかこれからの佐々木監督の手腕が楽しみです。

旭川西高校は勢いのあるバスケットボールを大いに表現してくれました。ウィンターカップ予選では大麻高校に惜敗しましたが、3年生は一人で新チームとしてのプレーキャリアが一番あり安定したゲーム運びが出来たように思います。準決勝の東海戦では、高さでは負けるものの外角のシュート力は旭西の方が上であり、インサイドをいかに守るかが課題でした。④シューター佐々木が残り5分でファール退場になったことが明暗を分けたようです。また最後の延長レイアップシュートをこぼしての無念の敗北でした。しかし⑧大西の成長は目を見張るものであり、また⑦秋月の体も出来つつありインサイドプレーヤーらしくなってきました。自分より大きい選手に通用するプレーを体得し、アウトの選手も視野に入ってくるとチームとしての得点も大きく伸びるものと思われれます。日下部コーチもこのチームに掛ける思いはただならぬものと伝わってきます。もう一回りスケールの大きなチームに仕上がることを期待します。

大麻高校は軸であった3年生が抜け、新チームとしてまだまだ未完成的な状況であったようです。④竹田と⑤八幡を中心として持ち前の速攻と速いボール回しからのシュートも決定率が悪く、オフェンスもエリアを広げてドライブを狙うがその前の崩しが弱くディフェンスに読まれリズムが作れないケースが多かった様に思います。これからはガード陣が経験を積むことによって、まだまだ伸び率があるチームだと感じました。センター不在のチームであり長野監督がどの様なチームを仕上げるか大変興味があるところです。

今のところ上位4チームの戦力は、大変肉薄している状況であります。この春をこして高校選手権大会まで、それぞれがどう鍛えチームを作ってくるか本当に楽しみであります。それぞれのチームが質の高い、全国レベルでの戦いになるよう一層の工夫をし強化されることを期待しています。

ベスト4に続く期待チームとしては、ベスト8で大麻高校に破れはしたもののプレーセンスの良い選手が集まった帯広工業、選抜大会同様東海に敗北した選手バランスの良い市立函館高校、また海星学園も選抜に引き続き旭西に破れたものの各場面で同等に戦えたものがありました。3チーム共に格上のチームとの戦い方を工夫されて、今後大いに強化してもらいたいと期待をしています。

以 上

※ 女子の部の講評は遠山道高体連強化委員の講評を後日掲載されます。

## Jr オールスター練習会に参加して

1月24日札幌北陽中学校 25日厚別北中学校

北海道ジュニア連盟主催での講習会の講師として招聘されて参加しました。全道の多くの実績のある中学校指導者の方々の前での指導は大変苦しいものでしたが、モデルが全道から選抜されたオールスター12名の素晴らしい選手に助けられて大変楽しく練習をさせて頂きました。全道各地から集められた中学校の先生方のバスケットボールを思う熱い心と、探求心に富んだしつこい眼差しがとても印象的な2日間でした。連盟会長幸丸政実先生を始め大浦浩先生、高橋和也先生、山田秀剛先生そして事務局の多くの先生には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

24日はマンツーマンチームオフENSEを中心に、25日はゾーンオフENSEを中心に講習をさせて頂きました。特に2日目のゾーンオフENSEは厚別北の高橋先生のリクエストで、南北決定戦のゲームの中でゾーンの攻めが著しく劣ることを指摘され今回の講習会で取り上げてみようということになりました。日常の練習でゾーンオフENSEに対する準備が圧倒的に少ない事と、基本的な練習方法が理解されていない事もゾーンオフENSEの未熟な要因になっているようです。

2日間の練習内容の概略です。

指導の中で特に強調したことは下記の4点です。あらゆる場面で選手に認識させることが大切です。特にミニバスケットボールの段階では常に意識づけをしてもらいたいファンダメンタルであると思います。

※『Look before』前もって見る

※『Think before』前もって考える

28m×15mのコートの中に自分以外に9名がいる。今どんな状態にあり、何をしようとしているのかを正確に把握し、自分が何をなすべきかを素早く判断する。つまり予習能力である。

※『Meet the Ball』パスされてくるボールに対して、最も短い直線距離を走ってボールを迎えに行く。

※『Pass and Go』パスを出したらすぐに空いたスペースに飛び込む。

### 【1日目】マンツーマンオフENSEの練習について

4 men 1 post を基本にしてマンツーマンオフENSEの体型を作りました。その際 post の位置が重要になります。センターの能力でハイ、ミドル、ローの選択をすることにより色々なスペースが生まれます。ボールサイドは『Pass and Go』でカットをして、ヘルプサイドはフレアースクリーンでボールサイドのプレー状況を観察します。外枠のプレーヤーの留意点として3点上げておきます。

◎ 無駄足のないスムーズな動きとボールミート

- ◎ スクリーン無しでもディフェンスを振り切れる脚力
- ◎ 1 on 1 を仕掛けるタイミングとその他の選手4名の合わせ

**【2日目】ゾーンオフENSEの練習について**

ゾーンオフENSEも出来るだけマンツーマンと同じ体型で攻めさせることにより、チェンジングディフェンスにスムーズに対応でき、ベンチや選手の混乱を防げる意味合いから全てのゾーンオフENSE体型も 4 men 1 post を基本にしています。

ゾーンオフENSEのポイント

- ◎ 出来るだけ簡略な動きであること。
- ◎ 3 on 2 の縦のアウトナンバーポジションをしっかり練習する。
- ◎ ショートコナーエリアを広く使う。
- ◎ ポストはポジションに関係なくフラッシュする。
- ◎ パスフェークを存分に使う。
- ◎ クロスパス後はインサイドへ入れるかドライブが有効。

J r オールスター北海道選抜チームの全国制覇 V 3 を心より祈っています。

H B A (北海道バスケットボール協会) 指導者育成専門委員会